

2018

March

3



VOL. 9

ガバナー月信

▼ Contents

ガバナーメッセージ	1
地区リーダー研修セミナー・ 第2回地区運営会議の報告	2
米山記念奨学委員長セミナー報告	3
ロータリー財団セミナー・ 補助金管理セミナー報告	4
社会奉仕活動報告書 (加茂RC・中条胎内RC)	5
3月地区の予定/新会員)	7
会員数及び出席報告	8
コーディネーターニュース	9
ハイライトよねやま	10
文庫通信	12

2017-18 Rotary International District 2560

国際ロータリー第 2560 地区 2017-2018 年度

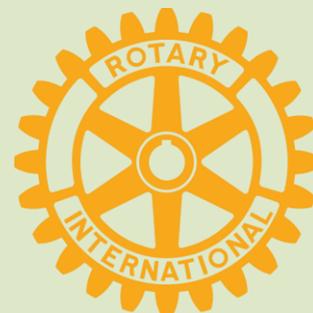
新保ガバナー事務所

〒951-8053 新潟市中央区川端町 6-53 ホテルオークラ新潟 1F

TEL:025-222-2561 FAX:025-222-2565

E-MAIL k.shinbo@rid2560niigata.jp

Rotary





3月は「水と衛生月間」

2017-2018年度 ガバナー
新保 清久 (新潟万代RC)

新潟県内で飲料水の安全性や水不足を心配している人は、ほとんど誰もいないのではないかと思います。私達は、毎日、安心して水道水を飲料水や料理、洗濯、水洗トイレ等の生活用水として使用しています。

日々万全の体制で安全でおいしい水の供給に取り組んでいる各市町村の水道局並びに関係機関に感謝するところであります。

さて国連は2015年に2030年までに達成する17項目の持続可能な開発目標（SDGs）を定めましたが、その中に「安全な水とトイレを世界中に」という項目を設定して、極度の貧困をなくすカギとして安全な水へのアクセス、確保を目標にしました。

世界的には、適切な衛生設備が利用できない人が25億人、安全な飲料水が得られない人が7億4800万人おり、さらに毎日1400人の子供が劣悪な衛生環境と不衛生な水を原因とする病気で命を落としています。水不足の影響は、世界の40%に及んでおり、気候変動の影響で地球の気温が上昇するにつれさらに大きくなることが予測されています。

ところでロータリーには、水と衛生を専門とするロータリアンの世界的グループ「水と衛生のロータリアン行動グループ（WASRAG）」という組織があります。

2018年の「世界水の日」（3月22日）に合わせて地元の水環境を改善するプロジェクトの実施を世界中のロータリアンに呼びかけています。

ところで「Beers Rotarians Enjoy Worldwide (BREW)」(世界中でビールを楽しむロータリアン親睦活動グループ)があることをご存知でしょうか。「醸造する」を意味する「BREW」と略されるグループは、世界中でイベントを開きロータリーの重点分野である「水と衛生」のための資金調達活動を行っています。ビールを飲むことで、例えばアフリカの村にきれいな水を届けられます。BREWのメンバーは、「水と衛生のロータリアン行動グループ」と協力して支援するプロジェクトを選び、これらのプロジェクトに親睦活動グループの会費の25%を寄付しています。また資金面でのサポートを得るために世界的な大手ビール会社に働きかけています。

当初は、「楽しくビールを飲んで、親睦を深める」というアイデアでした。

ソウル国際大会に参加した日本、ロシア、南米、オーストラリア、インド、ヨーロッパ、アフリカ、北米など世界各地から集まったメンバーは、現地のパブに集合して、韓国のビールを味わいながら交流を深めたそうです。

ビールを楽しみながら「世界でよいこと」を行うというまさに親睦と奉仕が両輪（一石二鳥）のロータリー活動に感心しました。

私たちは、「安全な水」についてもっと関心を持ち、地元の水の保全活動に取り組むだけでなく、衛生設備と安全な水の支援を求めている世界中の人たちに国際貢献できる方法を考えていかなければならないと思います。



「2018-19 年度 地区リーダー研修セミナー 第2回地区運営会議の報告」

2018-19 年度
地区幹事
関川 博 (三条RC)

2月10日(土曜日) 三年三役会、諮問委員会、川瀬ガバナーエレクト国際協議会報告に続き、2018-19年度地区リーダー研修セミナー及び第2回地区運営会議が開催されましたので、報告します。

この冬の雪は、雪国新潟も3回目となると笑顔も消え、深刻な状況となりました。月曜日から降り続く雪は、前の週に降った雪が消えないまま深々と降り続き、除雪した雪も置き所がない状態。川瀬ガバナーエレクトの地元三条市は消雪パイプが枯れ、至る所で圧雪と雪の壁。屋根の雪下ろしも検討しなくてはならない状況の中、「地区運営会議を中止しては如何か」と言う声も聞こえ始めたおり川瀬ガバナーエレクトは「安全第一です。お越しいただける方のみの参加でも構いません。地区運営会議は行います。」と力強い一言に、背中を押されました。

さて、第2回地区運営会議に先立ち、地区リーダー研修セミナーが開催されました。講師の2018年国際ロータリー研修リーダーの高野孫左エ門様により「国際ロータリーとクラブをつなぐ」と題し、先の国際協議会でのバリー・ラシン次年度RI会長のテーマと方針に続き、近年の国際ロータリーの活動及び考え方をわかりやすく丁寧に説明いただきました。ロータリークラブの活動や方針を説明する様々なテキストがある中、国際ロータリーからクラブ活動まで分かりやすく、しかもロータリーとは何か?改めて考える機会となりました。特に印象的だった内容で「祖父も父もロータリアン。父の遺品を整理していたら『奉仕』とは、他者への働きかけであるように見えて、実は自分との戦いであり、結果として心の豊かさが与えられるものと書かれた文書を見つけた。」大雪にも関わらず、ここに参集した皆さんはまさに『奉仕』するためまたは奉仕を学ぶために、自分と戦い時間を捻出したのだと思うと胸が熱くなりました。終了後、このセミナーで使用されたパワーポイントをぜひいただきたいと複数の皆さんから申し出があったことが何よりの評価だったことを報告します。(後日、いただけるお約束をいたしました。ご希望の方は、川瀬ガバナーエレクト事務所へお問い合わせください。)



高野孫左エ門講師

第2回地区運営会議は、思いの外多数のご参加をいただきました。川瀬年度では、帰国報告会に続き研修セミナーを開催したので、RI会長テーマおよび川瀬年度地区方針はそこで発表された。本会議では、各委員会委員長による川瀬年度の実行計画案を説明。特に、川瀬年度よりスタートする奉仕プロジェクト委員会は職業奉仕委員会、社会奉仕委員会、国際奉仕委員会が協力連携しクラブの人的奉仕活動を重点化し増加を考えることを提唱。しかし、各クラブ組織において3奉仕委員会は独立しており、すぐに対応できないことも理解できる。今後、考え方や方策をPETS、地区研修・協議会で丁寧に説明し、公式訪問で説明および確認を行う。ここ数年、地区大会記念親睦ゴルフ大会を含み四大大会と呼んでいたが、当該大会は地区大会のイベントであるため、川瀬年度ではロータリー活動であるPETS、地区研修・協議会、地区大会を三大大会と呼ぶことに改める。



新保ガバナー、川瀬ガバナーエレクト、大谷ガバナーノミニーのスリーショットを付け添えます。





「2018年 第2回米山記念奨学委員長セミナー報告書」

米山記念奨学委員会
委員長
宇尾野隆（新潟RC）

1月27日（土）ホテルオークラ新潟に於いて本年度第2回米山記念奨学委員長セミナーが開催されました。

当日は、新保清久ガバナー、石本隆太郎（公財）ロータリー米山記念奨学会評議員・パストガバナーの出席をいただき、2560地区の50クラブの今年度、次年度の米山記念奨学委員長80名の皆様にご参加をいただきました。

新保ガバナーのご挨拶に続き、地区米山記念奨学委員長として私の方から挨拶をさせていただきます、セミナーに入りました。



2560地区米山学友のアドゥアヨム アヘゴ アクエテビさん（新潟医療福祉大学博士課程）より義肢装具の研究、アフリカのガーナでの義肢装具のサテライトオフィス開設、現地での義肢装具の作製、2020年東京パラリンピックでのトーゴチームへのサポートなど新潟とガーナや母国トーゴでの熱意溢れる取り組みについてお話をいただきました。本当に日本と母国を結ぶ懸け橋として活躍をしている人材に成長しロータリアンとして嬉しい限りであります。

続いて米山奨学生のファン ヴァン マインさん（ベトナム 新発田RC 新潟医療福祉大学 修士2年）と全 麗麗さん（ゼン レイレイ 中国 新潟中央RC 新潟大学教育学部修士2年）のお二人から現在奨学生として生活を送っている経験談をお話いただきました。

参加された各クラブの皆様は、学友の成長と活躍、そして奨学生の学問への取り組み、世話クラブとの交流、ロータリーを理解して母国と日本の懸け橋としての役目をこれからの人生で担おうとする姿勢に感銘を受けていました。



その後、若山奨学生選考委員長から今年の奨学生選考結果の報告、大学説明会から奨学生の募集、書類選考、面接試験の過程や選考基準について話をさせていただきました。

その後DVD「よねやま親善大使」を全員で視聴し、丸山副委員長より米山奨学会への寄付の現状報告と寄付増進についてをお願いをさせていただきました。

最後に、石本隆太郎評議員よりご講評をいただき、参加者の皆様は再度米山記念奨学事業に対する認識を深め、各クラブでの事業を充実させる決意を新たにしていました。





「ロータリー財団セミナー・補助金管理セミナー」報告

さあ、財団補助金新年度の始まりです

ロータリー財団委員会
 補助金委員会委員長
 山田雄治（新潟南 RC）

2月17日土曜日ANAクラウンプラザホテル新潟において2017-2018年度「第二回ロータリー財団セミナー・補助金管理セミナー」が各クラブ次年度会長、ロータリー財団委員長にお集まりいただき開催されました。このセミナーは2018-2019年度の地区ロータリー財団のことをお伝えし理解を深めてもらうことを目的としています。



ガバナーから示された寄付目標に基づきどうやって寄付が集められ、その寄付がどのように使われるのかを知ってもらい、クラブがどの様に地区補助金を申請・活用しているのかを事例発表を交えてお伝えするものです。

今回は新保ガバナー、川瀬ガバナーエレクト、大谷ガバナーノミニーに出席いただきました。

セッション第一部(財団資金活用と次年度寄付目標)はロータリー財団資金活用のための概要を後藤副委員長からお話いたしました。このセミナーは補助金活用のために義務づけられているため欠席早退すると補助金や奨学生の申請ができない事になるとの注意があり参加者は真剣に話を聞いていました。

今年は地区補助金の事例発表に

- ・高田東RC 「躍動感に溢れるスイングのリズムに乗って感性を磨こう」
- ・村上RC 「地区補助金を活用した、音楽療法クラシック&ポピュラーコンサート」

地区奨学生制度の事例発表は

- ・奨学生経験者の体験談発表、児玉瑞穂さん

グローバル補助金の事例発表に

- ・直江津RC 「障害者支援プロジェクト」

を発表いただきました

そして寄付・資金の現状と次年度目標、ポリオプラスについて説明の後ポールハリス・ソサエティ会員の発表でした。



休憩の後セッション第二部(資金管理について)は次年度に向けたスケジュールと資金管理ルールについて得永資金管理委員長より説明がありました。

全体を通して質問を受け付けましたが特になく、その都度申請書作成段階で疑問があったら個別に受け付けますのでご連絡ください。



「一人暮らし高齢者を旅行に招待」

加茂RC
会長 市川 賢一

加茂RCでは、11月3日に「第41回さわやかドライブ」を実施した。これは外出の機会がほとんどなく家に閉じ籠もりがちな一人暮らし高齢者に外出の機会を提供し、自然の素晴らしさを思い出してもらったり、歴史的建造物や文化財にも触れていただき、また参加者同士の交流を深めることなどをおして、生きる喜びを新たにさせていただこうというもの。

今年度は、独居高齢者61名を招待し、白鳥の憩う「瓢湖」、豪農の館「市島邸」、「北方文化博物館」、新発田市の温泉施設「ほうづきの里」などを巡った。参加者は、晴天に恵まれた秋の一日、爽やかな空気に触れながら見学先を回り、説明に聞き入ったり、同行者とおしゃべりを楽しんだり、久しぶりの外出を存分に味わっていた。



「市島邸では地震の被害を聞く」



「昼食会場の中広間に集まった参加者」

参加者のWさんは、「豪華な館を2軒も見せてもらってとても良かった。もう一度個人でも行ってみたいけど、足がないのでもう見られない。お昼は、ご馳走が多くておいしかった。私はほうづきの里でお風呂に入ってきました。すべすべしたお湯でとっても良かったです。毎年連れて行ってもらっているが、今年が一番良かったです。また、来年も行

きたいです。」と感想を寄せてくれた。多くの参加者から同様の感謝の声を頂いた。

この事業は、会員企業のマイクロバス3台と社会奉仕委員会を中心に14名の会員が奉仕をいただいで実施した。



「北方文化博物館にて」



「聴覚障がい者の喜び」社会奉仕活動

中条胎内 R C

会長 星野 富雄

今年度の社会奉仕活動では、ロータリー財団の補助金をいただき「聴覚障がい者の皆さんのお楽しみ会」を11月26日（日）開催しました。

事前に例会を3回使って聴覚障がい者の実情や手話での挨拶、自己紹介、そして皆で合唱するために「ふるさと」を手話で歌えるように卓話での勉強会を重ねました。今までにない例会の内容に会員の皆様からも、社会奉仕活動の意義を感じるようになったと言葉をかけられるようになり、例会の中で初めて感動する感覚を覚えました。正直本番前にして、もう既にやって良かったと思えていました。

11月26日当日も聴覚障がい者及びその関係者95名が参加する中、挨拶する会員が一人一人手話で自己紹介することに聴覚障がい者の方々は嬉しそうに反応していました。第一部では「びり&ブッチーのイエンタウンフルズ」による言葉を喋らないパフォーマンスの公演を70分。健常者はもちろん聴覚障がい者の皆さんも同じところで反応できる素晴らしい公演でした。第二部ではデザートバイキングによる交流会。参加者が箱の中の品物を手探りで当てる「箱の中はな～に」や「じゃんけんゲーム」で聴覚障がい者の皆さんは大興奮です。終わりに参加者から「皆さんに手話をやっていただいて嬉しかった」「普通のイベントは耳が聞こえないと楽しみきれなかったが、今回はすごくいい思い出になった」と感想を述べていました。

我々健常者も一人ぽつんと居るのは寂しいものです、誰かが声をかけてくれると楽しくなります。聴覚障がい者の方々も一緒です。手話ができなくても一生懸命に声をかけてもらえるだけで本当に嬉しいのだそうです。耳が聞こえないぶん目でしっかり相手の唇の動きを読み、表情を読み取りながら会話をしてくれます。手話をしてくれること、声をかけてくれること、そういう人がどんどん増えていくこと、これが聴覚障がい者の喜びです。

また、この活動とは別に当クラブの社会奉仕活動の特徴を紹介させていただきます。ここ数年、福島からの被災者や知的障がい者、こども園などを対象にした社会奉仕活動でただ物を寄付するだけでなく「ゲゲゲの一座」の公演をすることで、交流を深めながらの活動を展開しています。本音をいうとコスプレ好きの会員のただの趣味に過ぎない気がしますが（笑）。今年もNPO法人が障がい者の働き場所をつくるため、一人暮らしの老人の



配食弁当をつくる施設を申請しています。法人のため予算がなく、当クラブから鍋や釜など寄付を予定しています。そこでも是非「ゲゲゲの一座」の公演を考えています。ただの趣味ですが=会員の楽しみ=楽しいクラブ=会員増強に繋がるものと考え社会奉仕活動に努めて参ります。

3月地区の予定 【水と衛生月間】

2018年3月		地区主要行事	会場
1	(木)	第6回日台ロータリー親善会議	台湾・高雄市
3	(土)	米山記念奨学生終了式・歓送会	ホテルイタリア軒
		ローターアクト地区大会	燕三条ワシントンホテル
10	(土)	地区奨学生候補者オリエンテーション	万代シルバーホテル
17	(土)	第2回会員増強セミナー	ホテルオークラ新潟
24	(土)	川瀬年度PETS	ジオワールド・VIP
31	(土)	米山カウンセラー研修会	ANAクラウンプラザホテル新潟
29-1	(木-日)	インターアクト海外研修	D3490 (台北懸三重市)

新入会員 紹介 (敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	職業分類
新発田城南	高木 美佳	2018.2.8	三日月	代表
巻	長谷川 敏栄	2018.2.1	ライブデザイン株式会社	代表取締役
巻	青柳 大	2018.2.1	巻タクシー株式会社	代表取締役
巻	渡辺 志津子	2017.12.1	椿田病院	看護部長
長岡	村上 敦子	2018.1.31	株式会社ネオス	常務取締役
長岡	大崎 則彦	2018.2.13	株式会社JTB関東 法人営業長岡支店	支店長
直江津	玉木 康之	2018.1.16	有限会社玉木塗装工業	専務取締役
直江津	小林 嘉一	2018.1.23	有限会社昭和技研	代表取締役社長
直江津	笠原 竜義	2018.1.23	株式会社KTEC	代表取締役

2018-19年度地区補助金申請受付開始

- 1.申請は年に1回です。
- 2.申請の時期は、事業を実施する年度の前年度の3月末までです。
- 3.申請には以下の2つの要件を満たすことが必要です。
 - ・クラブは、資格認定覚書(MOU)に署名し、地区事務所に提出すること。
 - ・地区の第2回財団セミナー・補助金管理セミナーに参加すること。

2018-2019年度に実施するプロジェクトの申請書は
2018年3月31日(土)までにガバナー事務所にご送付ください。

第2560地区 2017-18年度 1月末 会員数および出席報告

R C	例会数	出席率	会員数			
			7月1日現在	1月末会員数	うち女性	増減
第1分区(9クラブ)	／	86.08	364	383	37	19
新発田	3	96.82	93	98	0	5
村上	3	86.84	37	38	9	1
水原	3	74.32	27	27	0	0
中条	4	91.89	34	37	3	3
新発田城南	3	83.48	41	42	4	1
豊栄	4	84.30	26	27	3	1
新発田中央	4	81.77	45	50	5	5
中条胎内	3	90.74	33	36	7	3
村上岩船	3	84.52	28	28	6	0
第2分区(9クラブ)	／	81.61	441	449	20	8
新潟	4	88.43	86	91	0	5
新潟東	3	79.14	62	59	8	-3
新潟南	4	86.88	99	105	2	6
佐渡	3	81.00	7	7	0	0
新潟西	3	80.55	41	39	1	-2
佐渡南	4	85.81	41	41	4	0
新潟北	3	63.08	43	43	0	0
新潟中央	3	88.00	24	25	0	1
新潟万代	3	81.58	38	39	5	1
第3分区(6クラブ)	／	77.71	122	121	7	-1
新津	4	70.58	18	17	0	-1
村松	4	97.73	11	11	0	0
五泉	3	64.28	17	15	2	-2
白根	3	83.80	37	37	2	0
新津中央	4	79.85	29	31	2	2
阿賀野川ライン	3	70.00	10	10	1	0
第4分区(11クラブ)	／	72.52	368	370	23	2
三条	4	86.93	57	60	0	3
燕	4	58.33	33	34	1	1
加茂	3	70.23	29	27	4	-2
三条南	3	85.05	48	48	3	0
分水	4	64.66	31	30	3	-1
見附	2	70.00	20	21	1	1
吉田	3	70.00	33	30	2	-3
三条北	4	74.98	64	65	2	1
巻	4	82.10	14	15	1	1
田上あじさい	4	62.50	7	7	1	0
三条東	3	72.92	32	33	5	1

R C	例会数	出席率	会員数			
			7月1日現在	1月末会員数	うち女性	増減
第5分区(7クラブ)	／	85.29	314	322	23	8
長岡	3	89.24	39	45	1	6
柏崎	4	82.63	45	45	0	0
長岡東	3	87.42	66	70	5	4
柏崎東	3	88.81	50	48	4	-2
栃尾	4	88.00	21	21	0	0
長岡西	3	80.36	57	57	5	0
柏崎中央	3	80.56	36	36	8	0
第6分区(6クラブ)	／	80.34	154	158	11	4
十日町	3	97.05	34	34	3	0
小千谷	3	55.68	38	39	5	1
雪国魚沼	4	70.20	25	27	2	2
十日町北	3	91.67	23	24	0	1
津南	3	88.89	27	27	1	0
越後魚沼	4	78.56	7	7	0	0
第7分区(8クラブ)	／	84.43	320	327	25	7
高田	4	97.66	66	66	0	0
直江津	4	82.28	48	54	4	6
新井	3	80.00	29	30	3	1
糸魚川	3	87.58	42	43	3	1
高田東	3	73.68	38	38	3	0
糸魚川中央	2	86.76	34	34	0	0
頸北	4	94.60	14	15	1	1
越後春日山	3	72.85	49	47	11	-2

クラブ数	56	クラブ
7月1日 会員数	2,083	人
1月末 会員数	2,130	人
女性会員数	146	人
純増減会員数	47	人
当月平均出席率	80.85	%





■国際協議会(1月14日～20日)が終了しました。”BE THE INSPIRATION/インスピレーションになろう”という次年度会長テーマが発表されました。

“ロータリアンたる者は行動して周りの人と共に世の中に好ましい変化をもたらしてゆこうよ。そして何よりも自分も変わろうよ”と訴えられました。ロータリーの世界は次年度へ向かって準備を始めましたが、現在私たちは当該年度の仕上げの期間を迎えましたが、成果はいかがでしょうか？5日間の理事会が開かれました。特記すべきことは、会員増強プログラムのフリートーキングでしょうか？皆様にお見せしたくなるほどの熱のこもったものでした。会員の 카테고리、資格案件、ゾーン地域別組織などが語られ、各理事がこの会員増強に必死な努力をされていることが伝わってきました。あの柔軟性あるクラブ運営を応用した新たなクラブの創設の評価はまだ途上です。むしろローターアクターをロータリーに迎える工夫を強化するようです。また、クラブに二つの数字(プロジェクトに費やしたお金とボランティア期間)を明示するよう求められています。奉仕活動(お金×期間)で可視化しようとする試みは少なくとも日本ではロータリー運動のマイナス要因となると考えます。これも国によって温度差がありますので一筋縄ではいかないでしょう。

国際ロータリー 理事 斎藤 直美

■「ロータリー・ボイス」ということ

近年、RIは「ロータリー・ボイス」ということを言っている。しかし、いまだロータリアンに浸透しているとは言いがたい。このボイスにはエッセンス・ステイメントという注釈がうたれている。ロータリーの魅力をこのボイスを使って分かりやすくストーリーで語ろう、というものである。このボイスは「賢明さ」・「思いやり」・「粘り強さ」・「行動を促す力」の4つである。ロータリーの広報・公共イメージアップを図るとき、このボイスの活用は有効である。

「賢明さ」は、博識・洞察力・自信を想起させる。世界122万人からなる経営者・専門職のネットワークは多面的なものの見方かつ問題解決を可能にする。また100年を超える歴史と伝統は組織としての知恵をもっている。

「思いやり」は「超我の奉仕」に象徴されるロータリーの社会奉仕・国際奉仕(6つの重点分野)などの「他人を思いやり、他人のために尽くす」活動がある。このボイスは相手に誠実さ、親身といったことを印象づける。

「粘り強さ」は、ときに諦観的な見方がされるポリオの撲滅に1985年以来30年を超えて取り組んでいる。またインターアクト・ローターアクト・青少年交換など、青少年の育成を半世紀に渡り粘り強く推進していることも特筆される。ポリオの現在の常在国はアフガニスタンとパキスタンの3国のみであり発症数も激減し、もう少しのところまで来ている。長年にわたるロータリーの貢献は大きく、ロータリーを語る時相手に明確な目標意識や勇気をイメージさせる。

「行動を促す力」は、ロータリーの理念を表す「2つの標語」、「ロータリーの目的」、「4つのテスト」など、私たちが奉仕活動へと鼓舞する理念・哲学がある。現在、「マイ・ロータリー」には情報資源が満載されている。この活用こそクラブの活性化、ロータリーの「公共イメージと認知度の向上」に求められているものである。クラブのボイス、自らの職業上のボイスを創ることも良いのではなかろうか。

第2ゾーン ロータリー公共イメージコーディネーター 柳生 好春

新ゾーン編成

ZONE 1: Section A: Japan (northern): 2500, 2510, 2520, 2530, 2540, 2550, 2560, 2800, 2830

Section B: Bangladesh, Indonesia, Pakistan: 3271, 3272, 3281, 3282, 3410, 3420

ZONE 2: Guam, Japan (central), Micronesia, Northern Marianas, Palau: 2570, 2580, 2590, 2600, 2610, 2620, 2750, 2760, 2770, 2780, 2790, 2820, 2840

ZONE 3: Japan (southern): 2630, 2640, 2650, 2660, 2670, 2680, 2690, 2700, 2710, 2720, 2730, 2740

■ お知らせ

この度、ロータリーコーディネーター補佐であった柳生好春パストガバナー(D2610野々市)が、イアン・ライズリー会長の任命によるロータリー公共イメージコーディネーターに就任いたしました。RPICとしての役割は即時開始となります。

前RPICの故・渡辺治夫様は公共イメージの取り組みを通じて会員増強にも貢献され、RPICの模範となる多大な貢献をされました。

■ ゾーン再編と増強目標

8年に一度のゾーンの再編が発表され1年がたちました。日本は3ゾーンから2.5ゾーンになります(2019年中に移行予定)。簡単に言うと1ゾーンを35,000人にする再編です。第1ゾーンにセクションAとBが新設され、Aには分割された旧第1ゾーンの地区、Bはバングラデシュ・インドネシア・パキスタンで構成されます。第2ゾーンに旧第1ゾーンの関東圏のほとんどの地区が入り、第3ゾーンに2630地区が加わるようになります。

1月31日現在、第1ゾーン28,731人、第2ゾーン28,157人、第3ゾーン32,976人で、合計89,864人です。次回のゾーン見直しは2024年の予定ですが、その2年前の2022年までに3ゾーン奪還の目安となる105,000人を再び突破させようとの目標を定めています。

単純に計算すると、これから毎年3.5%ずつ増強できれば、5年で106,730人になります。この間クラブ数の増減などさまざまな事象が起こると予想されますが、クラブも地区もゾーンもこの「年間3.5%増強」を目標に掲げ、次回ゾーンの再編の際には3ゾーンの奪還を果たしましょう。例えば、現在40人のクラブは2022年には48人にするということになります。とてつもなく難しいことではありませんね。問題は5年間、クラブや地区が増強のモチベーションを維持することができるのかにかかっています。つまりガバナー、GE、GN、GNDがしっかり引き継いで強靱なリーダーシップを進めていかなければなりません。

更に付け加えると、特に大都市圏ほどロータリアン比率が低いというのが現実です。人口1万人当たりのロータリアン数7.03人(国内平均値)を下回っている県・地区におかれましては、合わせて特段の増強の推進をお願い致します。

第2ゾーン ロータリーコーディネーター補佐 野口 英一



財団設立 50 周年記念式典開催速報

2月4日、当会財団法人設立50周年式典がグランドニッコー東京 台場にて開催され、日本全国、また世界各国から約700人にご参加いただきました。なお当日は、たくさんのロータリアン、学友・奨学生がボランティアとして協力してくれました。この場をお借りして御礼申し上げます。

フォーラム 50周年記念委員会の埴東男委員長の宣言により、第1部フォーラムがスタート。財団を代表し、小沢一彦理事長より本式典にご参加いただいた方々へ感謝の言葉が述べられました。続いて2016-18年度国際ロータリー理事・斎藤直美氏および東京RC会長・森田富治郎氏から祝辞をいただいたあと、フォーラム「世界に平和の種をまく ～米山記念奨学事業、未来への提言～」が始まりました。ファシリテーターは高野孫左衛門氏、学友を代表して陳思乾さん、全炳台さん、林小微さん、ジャンチブ・ガルバドラッハさん、于咏さんの5人がパネリストとして登壇し、「奉仕・成長」「恩返し・懸け橋」「行動・ネットワーク」などを主題に、各自が熱い思いを述べました。高野氏はさらに、6人の歴代理事長が描いた夢を示しながら、「ゲーテの言葉に“小さい夢は見るな。それには人の心を動かす力がないからだ”とあるように、米山記念奨学事業の発展には人材育成・世界平和・国際親善の推進といった基盤があったからこそ、多くの人々の心を動かすことができた」とし、設立時にロータリアンが掲げた夢を今後も一貫して描き続け、夢の実現に向け事業を推進していこうと力強く呼び掛けました。

祝賀会 第2部祝賀会は、二胡奏者として活躍する学友の姜暁艶さんの華麗な演奏で始まり、奨学生・学友たちがロータリアンの入場を手拍子で出迎えました。50周年記念委員の相澤光春氏と学友のジョルダヤコヴァ・サウレさんの息のあった進行のもと、駐日ミャンマー大使をはじめ、各国大使館・地域代表機関などからの来賓が紹介されました。続く記念講話には神奈川県立保健福祉大学名誉学長の阿部志郎氏が登壇。御年92歳の阿部氏は、幼少時、近所に住む米山梅吉・春子夫妻とよく顔を合わせたそうです。「皆さんは米山スピリットの継承者。経済・社会・世界に対して傾ける耳、差し伸べる手を持つ」との力強い言葉が感動を呼びました。また、特別表彰として、当事業に多大な貢献をされていた坂本精志氏ご夫妻に、小沢一彦理事長から感謝盾と花束が贈呈されました。「家族で話し合っ、持てるもの全てを社会に還元することを決めた」という坂本氏の言葉もまた、聞く人に深い感銘を与えるものでした。

学友を代表し1965-68年度奨学生・廖一久さんの感謝のスピーチ、姜暁艶さんのアトラクション演奏が終わると、あっという間に閉宴の時間に。最後は、全ゲスト700人による圧巻の「手に手つないで」で締めくくられました。





50周年を祝って — 海外学友会からの贈り物 —

財団設立50周年記念式典を目前に控えた2月2日、ネパール米山学友会（会長：ビジャヤ・パントさん）からお祝いの品が届きました。ネパール伝統の見事な木彫り細工の施された壁飾りで、日本語で「50周年おめでとうございます」とメッセージプレートが付いています。

また、式典当日には、モンゴル米山学友会（会長：シルネン・ブヤンジャルガルさん）から、50周年記念の米山シンボルマークをあしらった手作りのウェルカムボードが届けられ、受付に飾られました。台湾米山学友会（理事長：吳憲



璋さん）からは、台湾の刑務所で矯正教育の一環として作られた芸術的なボールペンが60本寄贈されました。こ

このボールペンは、同学友会の意向により、来賓に贈られたほか、当日、ニコニコボックスに3,000円以上寄付して下さった方に、御礼としてプレゼントされました。

寄付金速報 — 下期も順調なスタート —

1月までの寄付金は前年同期と比べて4.9%増（普通寄付金：0.7%増、特別寄付金：7.3%増）、約5千万円の増加となりました。1月のみの寄付額は例年並みでしたが、寄付累計額は約10億7千万円で、直近10年間のうちでも3番目に多い寄付額となり、下期も順調に良いスタートを切ることができました。

1月は普通寄付金（クラブで決定した金額×会員数分でお送りいただく定期寄付）下期分が主となりますが、今年度は1月末までに全クラブの75%、1,696クラブからご納入いただきました。今後ともご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

海外米山学友会総会のご案内

マレーシア 2018年**3月4日（日）** 16:00～ 会場：マレーシア学友会事務所（51B-1-01 Jalan Sungai Dua, 11700 Gelugor, Penang）、申込：yoneyama.malaysia@gmail.com

タイ 2018年**3月17日（土）** 15:30～受付開始
会場：KU HOME（バンコク市内） 申込：thaiyoneyama@gmail.com ワシン（タイ米山学友会幹事）



2018年2月23日

ガバナー各位

ロータリー文庫運営委員会
委員長 大塚信郎

拝啓

余寒の候、貴ガバナーはじめスタッフの皆様には益々ご健勝にてご活躍の事とお慶び申し上げます。また常々文庫へのご協力を心から感謝致しております。このたびは、下記10点をご紹介しますので「ガバナー月信」にご掲載下さるようお願い致します。なお今後ともご活躍とご成功を心からお祈り致しております。

敬具

追伸 下記ご掲載の場合は〔申込先〕もご記載下さるようお願い致します。

文庫通信 (366号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万4千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

文庫資料から

- ◎「ロータリーの夢と哲学～21世紀のロータリー～」 久野 薫 2018 19p
(D.2680西播第二グループIM記念誌)
- ◎「人類の繁栄とロータリー運動」 中村尚義 2018 4p
(D.2680西播第二グループIM記念誌)
- ◎「変えてはならないロータリーの基本理念 溢れている情報を整理して理解
しましょう」 松田泰長 2018 1p (D.2790月信)
- ◎「RLI参加者テキスト(2015-2018年度版)」 RLI日本支部；翻訳・監修
2016 197p
- ◎「地区リーダーチームの手引き ガバナー補佐・地区委員会委員長研修セ
ミナーテキスト」 服部芳樹 D.2630 2018 68p
- ◎「震災を記憶にとどめ後世に伝える 復興支援・5年のあゆみ」
いわき平中央R.C. 2016 62p
- ◎「東日本大震災支援報告書」 D.2530 2016 130p
- ◎「8・20広島市豪雨土砂災害復興支援報告書」 D.2710 2015 76p
- ◎「災害支援プロジェクト報告書」 D.2660 2012 142p
- ◎「体験『阪神・淡路大震災』」 西宮夙川R.C. 1997 70p
[上記申込先：ロータリー文庫]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 3階
TEL (03)3433-6456・FAX (03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館＝午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日